

「7 明日のためにわたしたちができることをしよう」

- 学習のねらい：1. 被災地支援のために、自分たちができるボランティア活動について考える。
2. 災害を記録し、後世に伝える意義を考える。

(指導上のポイント)

◆災害ボランティア活動には大きな期待が寄せられる一方で、ボランティア活動が被災地の人々や他のボランティアの負担や迷惑にならないよう、ボランティア一人ひとりが自分自身の行動と安全に責任を持つ必要があることを指導する。

(指導上のポイント)

◆災害に備えて、地域住民との交流を持つことの大切さを気づかせるため、ボランティア活動に参加する意義を指導する。

◆活動によっては危険な場合もあるので、必ずボランティアセンター（社会福祉協議会運営）の指示や注意等に従うことを指導する。

◆東日本大震災での復旧・復興では、災害ボランティアを含めて、県内外及び国外から多くの防災関係者が関わっていたことを指導する。
例) 警察、消防、自衛隊、外国からの救援隊など

(指導上のポイント)

◆被災地を支援する方法としてボランティアに参加しなくても、被災地の商品を買ったり、被災地へ旅行に行ったりすることが、生活再建に繋がることを指導する。

7 明日のために わたしたちができることをしよう

(1) 災害時のボランティア活動の大切さ

大規模な災害時には、被災地支援のために全国から多くのボランティアがやってきます。どうしてこれほど多くの方が参加するのか考えてみましょう。

- ・人のために役に立つことだから、困っている人を助けずにはられない
- ・自分の地域が災害にあったときに助けられたから恩返しのため
- ・自己実現のため など



(2) 災害時のボランティア活動に参加すること

被災地では、たくさんの助けが必要となります。下の絵を参考に、あなたはどのようなボランティアができるか考えてみましょう。



- 掃除、子ども・お年寄りの世話、炊き出し、救援物資の搬入・仕分け、被災した家の片づけ、水・食糧の配布 など

ボランティア活動以外で被災地を支援するとしたら具体的には何をすればよいと思いますか。

- 被災地の生産物の購入、家族での被災地旅行、行政が実施する被災地との交流事業への参加、被災地体験を還流報告 など

15

(次年度以降の展開例)

- ・被災地の生徒の手記等を読ませる。
 - ・生徒の住む地域での災害の記録や記念碑などについて調べさせる。
- などが考えられる。

【発展問題】

○震災で心に傷を受け、つらい思いをした時は、どのようにしたらよいでしょうか。

(回答例) ひとりで抱え込まず誰かに相談する。運動する。音楽を聴く。友達とおしゃべりする。など

(3) 災害を記録に残し、後世に伝えよう

災害の状況や被災地の思いを被災地以外の人や後世に伝えることは、これから起こりうる災害による被害を小さくするために重要です。

今も残る昔の石碑

東日本大震災被災地での保存プロジェクト



清岩庵境内の
津波記念碑
(鳥羽市浦村町)



一本松
保存プロジェクト



「いのちの石碑」
プロジェクト

①被災地の方は、なぜ写真の石碑などを残そうと考えたのでしょうか。また、そこに込められた被災者の思いについて考えてみましょう。

- ・ 災害の事実を後世に伝えるため。
- ・ 被災地の記憶を風化させることなく、後世の人が二度と同じような災害に遭わないでほしい。など

②被災地の思いを今後起こりうる災害に生かすために、あなたはどうすればいいと思いますか。

- ・ 防災訓練に真剣に取り組む。
- ・ 防災講演会に参加する。
- ・ 被災者の手記などを読む。
- ・ 家族防災会議を開く。 など

(指導上のポイント)

◆普段から生徒の住む地域での災害の歴史を調べて知っておくことの大切さを指導する。

【写真説明】

○「清岩庵境内の津波記念碑」(1854年安政東海地震の津波)の写真
津波記念碑には、下記が刻まれている。
一地震の後には必ず津波がくること
一安政東海津波の波先が、山門をはいつて境内に浸水したこと
一将来のために概略を記しておくこと
※みえ防災減災アーカイブに県内の津波関連碑が掲載されている。

<http://midori.midimic.jp/>

○「奇跡の一本松保存」プロジェクトは、岩手県陸前高田市気仙町の高田松原跡地に立つ松の木のモニュメントであり、震災からの復旧のシンボルである。

○「いのちの石碑」プロジェクトは宮城県女川町の中学生による、「1000年先まで記録を残す」ため、町内にある全ての浜に津波が到達した地点よりも高い所に石碑を作るプロジェクト。

(指導上のポイント)

◆三重県では、南海トラフ地震の今後30年以内の発生確率が70~80%と懸念されている。東日本大震災等の記憶を風化させず教訓を生かすため、また、防災意識向上のため、継続的に防災教育に取り組むことが必要であることを指導する。

(確認)

復旧・復興に参加することや後世へメッセージを残すことを理解できたか。

【発展問題】

○「旧大川小学校校舎」を震災遺構として保存するかどうかの賛否両論がありました。宮城県石巻市は平成28年3月に保存することを決定しました。保存について賛成か反対か話し合ってください。

☆議論のポイント

- ・ 賛否両論ある震災遺族の気持ち。後世に災害を語り継ぐ施設の在り方 など